

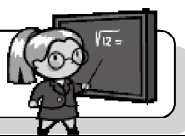
8 その他

到達目標例



第1学年	聞くこと	簡単な英語を聞いて、概要や必要な情報を聞き取ることができる。
	話すこと	①与えられたテーマに沿って簡単なスピーチ、スキット、会話発表ができる。 ②ペアで1分間、問答したり意見を述べ合うことができる。
	読むこと	①内容を理解し、それが表現されるように音読することができる。 ②簡単な英文を読んで、あらすじや必要な情報を読み取ることができる。
	書くこと	①既習事項を活用し、語と語のつながりなどを意識した8文程度の英文を書くことができる。 ②身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くことができる。
第2学年	聞くこと	①自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ることができる。 ②話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解できる。
	話すこと	①与えられたテーマに沿ってスピーチやスキット、会話発表ができる。 ②ペアで1分間、聞いたり読んだりしたことなどについて、つなぎ言葉を用いるなどして工夫して会話を続けることができる。
	読むこと	①内容を理解し、それが表現されるように音読することができる。 ②英文を読んで、必要な情報を読み取ったり、書き手の意向を理解して適切に応じたりできる。
	書くこと	①与えられたテーマに沿って、文と文のつながりなどを意識した、10文程度の英文を書くことができる。 ②聞いたり読んだりしたことについて、メモをとったり、感想、賛否やその理由を書くことができる。
第3学年	聞くこと	①まとまりのある英語を聞いて、概要や必要な情報を適切に聞き取ることができる。 ②質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。
	話すこと	①与えられたテーマについてスピーチや会話発表ができる。 ②ペアで2分間、聞いたり読んだりしたことなどについて、つなぎ言葉を用いるなどして工夫して会話を続けることができる。
	読むこと	①内容を理解し、それが表現されるように音読することができる。 ②話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べることができるよう、内容をとらえることができる。
	書くこと	テーマに沿って、文と文のつながりや論理的な展開や段落を意識した、10文程度の英文を書くことができる。

学習指導要領では、生徒の実態に合わせて、弾力的に指導できるよう、3学年間を通した外国語科（英語科）の目標となっています。各学校において、学校の実態に合わせ、上表のように学年ごとの目標を立てることが必要です。そしてどの単元でこの力をつけるのかを年間指導計画に位置付けましょう。



第〇学年英語科学習指導案例

平成〇年〇月〇日〇曜日 第〇校時
 〇年〇組 生徒数〇名
 場所 〇〇室
 指導者 〇〇 〇〇 印

～学習指導案作成前に、考えておきたいこと～

- 単元を通して「付けたい力は？」
 ＊学習指導要領の「言語活動」指導事項のどれにあたるか？
- そのためにどんなゴールの活動を仕組む？
 ＊付けたい力に向けてつながりのある単元計画を大切に！

1 単元名

2 単元について

○単元観

学習指導要領を踏まえ、この単元について、単元の目標や内容に即して具体的に記述する。

**この単元で
付けたい力を
確認**

〇〇〇のような内容・構成であり、〇〇〇のような言語材料を扱っている。だから、〇〇〇のような活動を通して、〇〇のような付けたい力（学習指導要領の言語活動の指導事項）を養うことができる単元である。＊言語活動の指導事項の例：話すこと－（イ）

○生徒観

この単元に関係するこれまでの既習事項やその定着の状況を、前単元までの評価、事前テスト、アンケートの結果などを分析し、その状況を具体的に記述する。

**付けたい力
に関わる
生徒の実態**

この単元で付けたい力に関すること（付けたい力が話すことであれば、話すことに関する関心・意欲や能力面等について数値も入れながら具体的に書く。また、言語材料に関わって既習事項と関連がある場合は、既習事項の定着度など）を書く。

○指導観

生徒の学習状況を踏まえて、本単元で確実に基礎・基本を身に付けさせるため、学習展開や指導方法の工夫、評価の進め方、指導上の留意点などを具体的に記述する。

**実態を踏まえ
付けたい力を
付けるにはどう
指導するか**

生徒の実態を踏まえ、単元で付けたい力を達成するためにどのような指導の工夫をするか、課題があればその手立てを書く。さらに研究テーマを踏まえた指導の工夫もあるとよい。また、本時の指導の工夫もあると、授業参観や協議の視点ともなる。

3 単元(題材)の目標

学習指導要領に示された目標を踏まえて、本単元での目標を具体的に記述する。

単元の目標と評価規準は
表裏一体！
目標との整合性を！

能力面を中心に！

国立教育政策研究所より出された「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 外国語）」を参考にする。
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>
*資料編に掲載しています。

4 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語 表現の能力	ウ 外国語 理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
①	①	①	① ②

1単元の中で、全ての観点を必ずしも見とる必要はない。1年間、3年間でバランスよく見とる計画を！

単元の評価規準を授業レベルに具体化する。

評価につながる
総括的評価のみ

5 指導と評価の計画（全〇〇時間）

評価：総括的評価、(形成的評価)

時	学習内容	評 価					評価規準	評価方法
		関	表	理	知			
					○			

その時間の目標（めあて）を実現した生徒の姿を具体的に書く。

形成的評価は（ ）内
に書くということ。
(P24 参照)

6 本時の指導

(1) 本時の目標

「3 単元の目標」を踏まえて、重点化した本時の具体的な目標を記述する。

(2) 観点別評価規準

「4 単元の評価規準」を基に、本時における評価規準を示す。

(3) 準備物

(4) 学習の展開

生徒の立場で記述する。

整合性を！

5 指導と評価の計画の評価規準とも同じ

学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
	<ul style="list-style-type: none"> ・「努力を要する」と判断した生徒を「おおむね満足する」状況にする指導のポイントを明記する。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・「十分満足できる」状況の生徒に対する指導のポイントについても明記する。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・単なる指示ではなく、その活動のねらいを達成するための<u>具体的な</u>手立てを書く。 ・TT の場合、役割分担などの工夫もあるとよい。 		

指導と評価の一体化

評価規準と評価方法は一枠でもよい

Questions and Answers



Q 1 英語の目標にある「初歩的な英語」とは、どのようなものですか。

「2（3）言語材料」に示された語や文法事項などを指しています。

Q 2 はじめ規定がなくなっているのは、どういうことですか。

これまでの学習指導要領において「・・・については、理解の段階にとどめること」等と定められていたものが記述を改められたことにより、表現の段階まで高める指導を行うことが求められています。例えば、

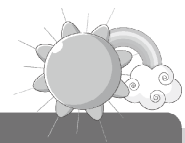
- ◆連語や慣用表現についても基本的なもの →「基本的なもの」が削除
- ◆関係代名詞のうち、主格の **that**、**which**、**who** 及び目的格の **that**、**which** の制限的用法の基本的なもの →「基本的なもの」が削除
- ◆**to** 不定詞のうち基本的なもの →「基本的なもの」が削除
- ◆動名詞のうち基本的なもの →「基本的なもの」が削除
- ◆受け身のうち現在形及び過去形 →受け身には、現在形、過去形だけでなく、未来表現も含む

Q 3 なぜ、授業時数が増えたのでしょうか。

授業時数を各学年で年間105時間から140時間に増やしていますが、指導すべき語数を除いて、文法事項等の指導内容はほとんど増加していません。これは、言語材料等の定着を図るとともに、生徒がつまずきやすい内容等について、繰り返し学習したり、自分の気持ちや考えを伝えたりする活動等の活用を図る言語活動のための時間を十分にとるためのものです。

Q 4 言語活動のア 聞くこと(オ)、ウ 読むこと(ウ)に「正確に」という文言が加わっているが、どのようなレベルのものですか。

「情報を正確に聞き取ること」は、英語を聞き取る時音の変化やスピードに対応して事実や出来事などについての必要な情報を正しく理解するという事です。「正確に読み取ること」は、例えば物語では、どんな登場人物がいるのか、主人公は誰か、話がどのように展開していくのかなど、大まかな流れをつかみながら読み取ったり、説明文では、特に中心となる事柄など大切な部分をとらえて的確に読み取ったりすることです。



Q 5 言語活動のア 聞くこと(オ)の「まとまりのある英語」とはどういうものですか。

一つのテーマに沿って話されたものや内容に一貫性のあるものなどを示しています。例えば、スピーチや機内アナウンス、天気予報などが挙げられます。

Q 6 「読むこと」の能力で、批判的に読むということは、どういう意味ですか。

「批判的に」とは学習指導要領解説外国語編P17にあるように、「読み手として主体的に考えたり、判断しながら理解していくこと」といった趣旨です。大切なのは、読み手が「自分ならどう考えるか」。そういった活動を組むことが必要です。



Q 7 4観点の評価における重み付けはどうしたらよいですか。(1 : 1 : 1 : 1なのですか。)

4観点の重み付けを単純に割合で示すことは難しいことです。学校によって、こういう力をつけたいという到達目標や生徒の実態が違います。従って、観点の重点の置き方はあって然るべきです。ただあまり極端な重み付けの差はどうでしょうか。基本的には4技能の総合的な育成という指導目標があるので、その点を踏まえた評価の観点を考えてください。

Q 8 1つの活動を下のような2つの観点で同時に評価することは可能ですか。

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	ペアで対話を行う中で、つなぎ言葉等を用いて対話を発展させようとしている。
外国語表現の能力	ペアで対話を行う中で、つなぎ言葉等を用いて対話を発展させることができる。

一つの活動で、二つの評価規準を設定することは可能です。ただし、一般的に想定されるのは「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」と「外国語表現の能力」、または「外国語理解の能力」との設定です。ただし、両方の規準を明確に区別しておくことが大切です。基本的には一つの活動について、一つの観点から見るのが一般的です。

Q9 中学1年生1学期の評価の工夫例を教えてください。特に「読むこと」、「書くこと」については、1学期に必ずしも評価しなければなりませんか。

中学1年生の1学期から4技能全てを同じレベルで指導していくことはないでしょう。3年間を見通した年間指導計画を立てるものなので、その流れの中で、中学校1年生の指導について適切に評価計画を作成し、それに基づいて評価していくことが大切です。

Q10 「外国語表現の能力」の「読むこと」において音読に関わる評価規準の設定例がいくつか出てきますが、「外国語表現の能力」として評価していいのでしょうか。

例えば、音読に関して学習指導要領解説では、音読に関わる事項イ、P15下6行で「声に出して読むことであり、書かれた内容が表現されるように音読する・・・」とあります。評価規準の設定例で言えば、適切な音読として「意味内容にふさわしく音読することができる」といった観点の設定例があります。これをどの観点に入れ込むかとなれば「外国語表現の能力」になります。例えば、自分の考えなどを筆者になりかわって相手に伝える‘読み聞かせ’などもあります。声に出して読んで伝えるのであれば、表現のレベルとして整理できます。

Q11 指導と評価の一体化という観点から、家庭学習の評価の在り方について、どのように考えればよいでしょうか。

評価は実際の授業の中で行うことが基本で、指導したことに対して、身に付いたかどうかを見ていくものです。指導というのはできないことをできるようにすることです。家庭で単語調べなどをやってきなさいというのは指示に過ぎません。評価できるのは指導者が責任もって指導したものについて行うものです。(やっている段階で教師の指導が入らない)家庭学習を基本的にどれくらいやって来たかを評価に入れるのは適切ではありません。



Q12 ～ノート点検に関する評価の在り方について～

例えば、家庭学習等でスピーチ原稿等を書かせ、その学習状況についてコミュニケーションへの関心・意欲・態度を評価することができますか。

外国語科は他の教科と違って、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」ですので言語活動をしているところを評価するものです。ノートにまじめに宿題や課題をやってくるかどうかは、学習への関心・意欲・態度になります。外国語科の目標は、コミュニケーション能力の育成です。それを評価の観点にとっているのです。この観点において、ノートを提出するなどの学習に対する取り組みが真面目かどうかは、評価事項に入りません。ただ、ノートを出してきた生徒に対して、「いつも頑張っているね」とか「君の学習への態度は素晴らしいね」等のコメントを書くことで、個人内評価をし、生徒の意欲を高めることも大切です。



Q13 外国語科における「言語活動」はどう捉えたらよいですか。

外国語科における「言語活動」も、一般的に言われている「言語活動」に含まれます。ただ、教科によって特性があるので、どんな言語活動が可能かということはいくらか差があります。外国語科の場合は何と言っても、「外国語を通じて」行うということです。そういう意味では、「学習指導要領解説外国語編」P9の言語活動の指導事項20項目はすべて言語活動です。また、「学習指導要領解説外国語編」のP9の2行目にある、

- ◆言語材料についての知識や理解を深める言語活動（学習的要素が強い言語活動）
- ◆考えや気持ちなどを伝え合う言語活動（活用させる言語活動）






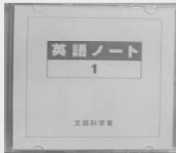

の2点をバランスよく指導することで言語活動の充実を図りましょう。

Q14 日本語で話し合う場面を外国語科として「言語活動」と捉えてもいいですか。

日本語で行う言語活動は、外国語科としての言語活動にはあたりません。

教材について

現在、文部科学省や高知県が作成している教材です。中学校では小学校の教材も、小中連携にぜひ活用してください。

<p>1 英語ライティングシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成23年3月に試行版、9月に正式版を県内全中学校、高等学校、特別支援学校に配付。高知県の中学生の英語の学力課題である「書くこと」に特化したシート。 I 単語・連語編、II 重要表現編、III テーマ作文編 の3部に分かれている。 単元テストシステムで、電子データとして配信しているので、各校で生徒の実態に合わせ、組み替えることも可能。 	
<p>2 『新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料』(文部科学省発行) DVDで配付</p> <ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領の趣旨を踏まえた外国語科の授業の映像(5校)。 授業についてのイメージをもつうえで参考になる。 	
<p>3 高知県小学校外国語活動モデルプラン</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成22年9月に県内全小学校及び中学校に配付。 小学校外国語活動の趣旨や指導内容・指導方法について掲載。また実際の授業づくりに役立つ年間指導計画例や複式年間指導計画例、単元計画例、活動例を掲載。 小中連携を図る際、相互の理解を深めるための研修にも活用できる。 	
<p>4 『英語ノート』(1・2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校外国語活動の教材。 学習指導要領に即した共通教材であり、中学校との接続が考慮されている。 教科書ではないので、Lesson 1から順にそのまま扱う必要はなく、児童の実態に合わせてアレンジできる。 例：『英語ノート1』のLesson 1「アルファベットで遊ぼう」を6年の最後の時期に設定し、中学校との接続を意識させるなどの工夫も考えられる。 	
<p>5 『英語ノート』指導資料(1・2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 『英語ノート』教師用指導資料。 指導資料の指導案どおりに行う必要はない。 CDの SCRIPT や指導者の英語表現例、文化背景解説なども掲載されている。 年間指導計画(P6、7)や評価規準例(P8)も示されている。 各ページの内容については市町村教育委員会を通じて、学校にPDFで送付されている。 	
<p>6 『英語ノート』CD(1・2)</p> <p>『英語ノート』の音声の部分が収録されている。</p>	
<p>7 『英語ノート』に準拠したICTデジタル教材</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声と映像を一体化した視聴覚教材。 学級担任単独の授業で効果的に活用できる。『英語ノート』のキャラクターがスクリーン上でモデル対話を行ったり、活動のモデルを行ったりする。 パソコン Windows2000以上、プロジェクタ、スピーカーが必要。 電子黒板があるとペンタッチなどができ、活用方法が広がる。 	

平成23年度をもって『英語ノート』配付は廃止。平成24年度からは、**新教材**が配付される予定です。